

2010年米山奨学委員長会議 およびカウンセラー研修会

米山奨学委員会

委員 和田 武彦
(大阪梅田東RC)

2010年米山奨学委員長会議およびカウンセラー研修会は8月7日午前10時から、大阪薬業年金会館に於いて、松本ガバナーをはじめ各クラブ米山奨学委員長及びカウンセラーなど約100名の出席のもと開催されました。司会・進行は西谷地区委員が担当しました。

はじめに、松本ガバナーから「本日の研修会で、米山記念奨学活動の素晴らしさを再発見して戴き、今後の活動の励みになるよう希望します」とのご挨拶がありました。

続いて、地区米山奨学部門顧問若林パストガバナーより「米山奨学会の今後の展望」と題して、

- ・最近世相を反映して寄付金額が減少傾向にある。
- ・ロータリアンも感動するものがないと寄付が集まりにくいので、未だ奨学生を受け入れて無いクラブの方々は、是非奨学生を受け入れて、素晴らしさを実感して戴きたい。
- ・苦学生への援助型から知的貢献型に奨学生の選考基準が変わって来ている。
- ・4年前に始めたベトナムでの現地採用型が3年間で6名の奨学生を受け入れ、そのテスト期間が終った。現在、その評価を検証中である。

などのご挨拶がありました。

次に、磯田委員長から、「カウンセラー研修会で伝えたいこと」をテーマに、スライドを使って、最近の留学生

事情や、異文化交流の難しさを踏まえた奨学生との接し方などの具体的な問題点、更には米山奨学制度独自のカウンセラー制度の素晴らしさなどの説明がありました。「米山奨学生に選ばれたことを誇りに思い、これからの人生の中で、米山奨学生であったことが大きな自信になります」などの奨学生のエピソードも紹介されました。

そのあと、全出席者が8つのグループにわかれ、

★カウンセラーを引き受けてみて疑問に思ったこと、奨学生のお世話で困ったこと、良かったこと

★ロータリアンの米山記念奨学事業の理解を深め寄付金を増やすにはどうすればよいか

の二つのテーマでグループ討議が行われました。

さすが、猛暑のなかご出席されたメンバーだけあって、各グループで活発な意見交換が行われ、その後各グループリーダーから討議内容の発表が行なわれました。

岡部ガバナーエレクトから、講評と熱心な議論に対する賛辞がありました。

最後に磯田委員長より、米山奨学金事業に対する理解を深めるためにも、地区としての受け入れ奨学生を増加させたい。その為には是非米山奨学事業への寄付を増やして戴きたいとお願いをされました。

猛暑の中をご出席戴き、最後まで熱心にご討議戴いたことへのお礼の挨拶で2時間に亘る研修会は閉会しました。

